

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和4年度岐阜県立池田高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和4年6月2日(木) 10:00~12:00
- 3 開催場所 池田高等学校会議室
- 4 参加者

会長	小林 月子	サンビレッジ国際医療福祉専門学校長
副会長	西川 昭	地域商工会議等代表 (欠席)
委員	仲井 智一	池田町教育長
	宇野 秀宣	神戸町教育長
	伊藤 敦	池田町立池田中学校長
	山田 直人	神戸町立神戸中学校長
	寺戸 敏彦	池田町杉野区長 (欠席)
	高橋あゆみ	神戸町立図書館運営協議会委員 神戸町立北小学校・神戸町立南小学校読み聞かせボランティア
	安田 正博	垂井町青少年県指導員
	山川 緑	育友会長
学校側	西谷 徹	校長
	栞原 利樹	教頭
	若園 佳織	事務長
	吉田 一臣	教務主任
	稲葉由里子	生徒指導主事
	古山 克幸	進路指導主事

### 5 会議の概要(協議事項)

#### ○令和4年度教育指導の重点及び学校経営計画について

意見1:本校卒業生の成長した姿を見られる機会があり嬉しかった。進路に対する明確な希望をもち、夢に向けて頑張っている姿勢を見て、進路指導や学習指導が正しい方向に向かうように指導していることがわかる。地域連携に関しても、可能な限り、より様々な方面でいっそうの充実を図ってほしい。

意見2:成人年齢の引き下げについて学校運営で変わった点はあるか。また18歳成人の文言を学校経営計画に盛り込んではどうか。

⇒自己の責任や自立について、入学時にも「3年後には果たすように」と保護者にも説明し、主権者教育等を充実させている。「成人」は大切なキーワードである。明示して浸透を図りたい。

意見3:学校の成長を生徒の行動変容によって評価していることがすばらしい。

- 意見4：部活動について、中学校では地域への移行が進んでいるが、高等学校ではどうか。  
⇒部活動指導員が数名いるが、数が少ないので、顧問の負担が大きい状況が続いている。過去と比べると、指導に関しては負担が軽減されているが、生徒数に対する部活動の適正な数について検討し、部の統廃合を進めることも大切である。高校では高体連・高文連等との関わりもあり、地域移行が難しい。
- 意見5：私が勤務する学校では生徒会活動が活発化しボランティアに対する熱意も大きい。ボランティア部の立ち上げに関しては中学校としても興味がある。様々な情報提供をいただきたい。  
⇒部活動以外に委員会でも、家庭クラブを2・3年生にも拡充するかたちでユネスコ委員会を立ち上げ、活動を広げようとしている。  
⇒受動的な姿勢では活動の機会が得られない。様々な方面で能動的にアクセスを行うことが大切である。その過程でボランティアに関するスキルを磨き、関わり方の選択肢を増やしていきたい。
- 意見6：町立図書館でも、高校生たちの意見を取り入れていきたいと考えている。コミュニケーションによって人との関わりを大事にしながらボランティアに参加してもらえるとよい。
- 意見7：他校の友人との子ども同士のやりとりでは、コロナ禍での様々な活動制限に関し本校は他校に比べて厳しいと聞いたが、教員が感染防止に関して様々な思いを巡らせ、感染対策を行っているからこそなのだろうと察する。子どもたちの不満はあるが、親として感謝している。制限があることは子どもたちが創意工夫するきっかけにもなっており、結果としてコロナの状況下でなければできなかったことが実現できるなどしている。
- 意見8：子どもが学校の教育活動に納得していればよい。キャリアパスポートについて、多様なニーズがある本校で、自分を客観視し書いて行動するということは非常に大切でありすばらしい。
- 意見9：地域の中で生徒を育てるといえるのは大切であり、そのコミュニティの中で自分に何ができるかを知っていくことが社会や国際交流に向かっていくための資質となる。地域連携を軸にしたカリキュラムの編成に対して大変ありがたく思っている。できる支援は精いっぱいしていきたい。

## 6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会では、参加した全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について、文言に「18歳成人」を明記する旨の意見を取り入れて修正することで一致し承認が得られ。

SDGsを拠り所として、単位制の利点や生かし、また探究的活動の手法を通じて「地域」や「福祉・環境」、「国際交流」を学ぶことで生徒の成長や行動変容を図る本校の教育活動の方向性について、委員からは理解と大きな期待感が寄せられていることを改めて認識した。今後もそうした基本方針に基づく具体的な教育活動を全校的に推し進めていくことが肝要である。